横浜市立　本郷特別支援学校 小中高　　令和　7　－　9　年度版　中期学校経営方針（　令和　8　年度修正　）

学校教育目標	家庭、地域、社会で豊かな生活ができる力を育てます。 ○わかって動ける力（知） ○適切なコミュニケーション力（徳、公、開） ○心身ともに健康・安全に生活する力　（体）

学校概要	創立　47　周年	学校長　　菅井　昭宏	副校長　阿部　誠　佐藤　大	2　学期制			
	幼児・児童・生徒数：　193　人	幼稚部：　人	小学部：　93　人	中学部：　50　人	高等部本科：　50　人	専攻科：　人	

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	育成を目指す資質・能力を踏まえた「12年間で育てる子ども像」と具体的取組
＜生活力＞ ＜自己実現力＞ ＜コミュニケーション力＞ ＜自己調整力＞	自分の思いを表出できる子ども 他者とのつながりを感じ、認める子ども 自分の課題解決に取り組む子ども ・それぞれの子どもに合った表出が支援できるように、意思決定支援プログラムやアセスメント方法の研究を行う。 ・教育課程改善を行い、各学部の学びのバランスや個別教育支援計画・指導計画との連動を検討する。 ・地域や外部人材とともに12年間のかかわりの中で、良好な関係を育む。

中期取組目標	○卒業後を見据え、小学部から高等部まで一貫した指導を行います。 ・個に応じた指導を充実し、自分の気持ちや考えを表現する力を育てます。 ・一人ひとりが安心できる環境をつくり、自己有用感をもち、楽しい学校生活が送れるようにします。 ・運動する機会を多く設け、体を動かす楽しさを実感するとともに、自ら体を動かそうとする意欲を高めたり、体力の向上を図ったりします。 ・近隣校の児童生徒や地域の方、ボランティアの方とともに活動する経験を通し地域とのつながりを強めます。 ・人とのかかわりの中で、自分の好きなことや得意なことを伸ばそうとする態度を育てます。

重点取組分野		具体的取組
知	個に応じた指導	①個別の指導計画において、改善した教育課程の運用と合わせて、教科の目標について学級・学年、学部ならびに学校全体で共通理解を深め、本人や保護者の思いを受け止め、共有しながら作成・支援、評価を行う。②「教育課程改善」を校内研究のテーマとし、学校教育目標の具現化に向け、各学部の系統性を大切にして研究に取り組む。③特別支援教育の専門性や障害特性を理解した指導力の向上をめざし、職員研修の充実を図る。
担当	教育課程推進・教育研究部	
徳	人権教育	①自ら選択したり、できることを増やしたりする体験を通し、自尊感情や自己有用感を育む取組を推進する。②保護者、地域とふれあう活動を大切にするとともに、副学籍交流、学校間交流、校外学習等を通し、地域で出会う「人」とのつながりを生かした学習を展開する。
担当	人権・交流教育部	
体	食育・健康教育	①摂食指導や食材体験を通して、食への意識や興味関心のさらなる拡大を図るとともに、健康に良い食事や食育について情報発信を行う。②指導内容の共有を図り、体力の向上を目的とした活動の幅を広げる。積極的に運動に取り組む機会を設け、体力づくりへの意識を高める。③児童生徒の健康状態の把握、共有に努め、様々な病気の予防や拡大防止に取り組む。授業や日常生活の指導を通して、正しい生活習慣の形成や自分の身体や健康についての意識を高める。
担当	給食部/保健体育部/保健部	
公開	自分づくり教育（キャリア教育）	①児童・生徒自身が活動に対して目標設定や振り返りを主体的に行えるようにキャリア・パスポートを活用する。②進路専任を中心として、各関係機関と連携しながら事業所見学を主催し進路オリエンテーションや進路座談会をニーズに応じた形で実施する。③タブレット端末を活用し、個々の特性に応じた意思決定支援の取組を実施する。
担当	キャリア教育部/地域進路支援部/	
いじめへの対応		①いじめ防止対策委員会を開催し、他害や不登校等も含め情報共有を図り組織的な対応を行う。②学校いじめ防止基本方針を全教職員で共有し、人的関係や学校生活で困り感をもつ児童生徒の心情に寄り添い、チームで対応し、解決に努める。③教職員の人権感覚を磨くために、人権教育に関する研修等を実施する。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①初任研や年次研、メンターチームなどを通しての若手の育成、人材育成の観点を取り入れた研修を行い職員全体の育成に努める。教職員がコミュニケ―ションを図り、組織力向上につなげる。②教育実習生やインターンシップ生、介護等体験生等の教員を目指す学生の育成に努める。③グループウェアやICT機器を活用した会議や情報処理の工夫、時間短縮を図りながら、効率的な組織運営を目指す。
担当	教務部・ICTｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	
センター的機能の取組		①学校組織として横浜型センター的機能を担い、地域の小中学校等の子どもたちのコンサルテーションを行い学校支援に努める。②地域の関係諸機関との連携を通して、地域における障害児者の理解促進や日常生活における充実性の向上に寄与する。
担当	特別支援教育コーディネーター	
地域連携・学校協働活動		①本校の学校教育目標や児童・生徒、学校行事への理解を深めていただくために、地域に情報発信を積極的に行う。②学校運営協議会での学校関係者評価を具体的な改善につなげるために、委員が授業や行事を参観する機会を設け、良い学校づくりにつなげていく。③持続可能な形で事業所の方や地域の各関係機関に関わっていただき、地域協働していく中で多角的な授業展開を図る。
担当	地域進路支援部/学校運営協議会	
安全管理		①非常時の対応について保護者に周知する。避難訓練、緊急時下校訓練等を実施し、防災に対する意識を高める。また、防災倉庫内の非常用物資を計画的に入れ替える。②学校生活上の様々な場面を想定した実践的な訓練を行うことで日頃から安全意識を高める。全教職員の共通理解のもと連携を図りながら各自が様々な状況の中でも適切な行動に結びつけられるようにする。③児童生徒の安全面に関する報告について、校内データにアクセスするリンク集を活用しながら、必要な情報を迅速に共有し、対策について円滑に対応できるようにする。
担当	防災安全・生活安全部	
担当		

横浜市立 本郷特別支援学校　　小中高　　令和8年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

家庭、地域、社会で豊かな生活ができる力を育てます。
　〇わかって動ける力（知）
　〇適切なコミュニケーション力（徳、公、開）
　〇心身ともに健康・安全に生活する力　（体）

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
＜生活力＞ ＜自己実現力＞ ＜コミュニケーション力＞ ＜自己調整力＞	感じたことや自分の思いを表出する力 人とのかかわりの中で、自他の違いに気づく力 社会生活の中での協調性

中期取組目標

〇卒業後を見据え、小学部から高等部まで一貫した指導を行います。
・個に応じた指導を充実し、自分の気持ちや考えを表現する力を育てます。
・一人ひとりが安心できる環境をつくり、自己有用感をもち、楽しい学校生活が送れるようにします。
・運動する機会を多く設け、体を動かす楽しさを実感するとともに、自ら体を動かそうとする意欲を高めたり、体力の向上を図ったりします。
・近隣校の児童生徒や地域の方、ボランティアの方とともに活動する経験を通し地域とのつながりを強めます。
・人とのかかわりの中で、自分の好きなことや得意なことを伸ばそうとする態度を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
個に応じた指導 担当　教育課程推進・教育研究部	①個別の指導計画において、改善した教育課程の運用と合わせて、教科の目標について学級・学年、学部ならびに学校全体で共通理解を深め、本人や保護者の思いを受け止め、共有しながら作成・支援、評価を行う。②「教育課程改善」を校内研究のテーマとし、学校教育目標の具現化に向け、各学部の系統性を大切にして研究に取り組む。③特別支援教育の専門性や障害特性を理解した指導力の向上をめざし、職員研修の充実を図る。

学力向上に関わる本校の状況

「個を重んじて、また分析いただいて、適切な指導をして頂いていると思います」「親の希望を取り入れつつ、本人の希望も聞いて指導して下さっています。」「生徒たちの無理のないよう個々に合わせたやり方で接していると思う」「よく考えて下さっていると思いますが、先生方の指導力の差は感じます」とのご意見をいただきました。教職員からは、「保護者アンケートをもとに、保護者のニーズと本人の実態を踏まえて支援計画を立て、達成に近づくよう日々実践している。保護者に協力いただけることに感謝している。」「個の目標やねらいが合っている部分と、まだ難しい部分と混在している気がします。」などの意見がありました。
＜考察＞本校では、個別の指導計画を学級・学年・学部・学校全体で共有し、本人および保護者の思いを大切にしながら支援を行ってきた。また、「一人ひとりを大切にする教育課程の編成」を校内研究の柱とし、12年間の系統性を意識した教育実践や、特別支援教育の専門性向上をめざした職員研修に継続的に取り組んでいる。保護者アンケートでは肯定的な評価が97%を占め、「個に応じた適切な指導」「本人や保護者の思いを踏まえた支援」がなされているとの意見が多く寄せられ、本校の取組が一定の成果を上げていることがうかがえる。一方で、教職員の指導力の差や、個別の目標設定の妥当性について課題を指摘する声もあり、支援の質のさらなる向上と平準化が求められている。今後は、校内研究や研修の充実を通して、目標設定や評価の視点について共通理解を深め、専門性の向上を図ることで、より一層「一人ひとりを大切にする教育」の実現をめざしていく必要がある。

今年度の目標

・アセスメントを丁寧に行い、個に応じた指導の充実を図る。
・学年内での情報共有を密にし、指導者がかわっても同じ目標で学習できる環境をつくる。
・学習段階表を用いて、教科・指導の目標やねらいを明確にする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	通年の取組として ・子どもたちのアセスメントを丁寧に行い、学年担任同士の情報共有、保護者との情報共有を通して、個に応じた指導、支援の充実を図る。 ・12年間を通して身につけたい力を明確にしながら、学校全体で教育課程の編成に取り組む。 ・意思決定支援の方法やコミュニケーションツールの効果的な活用に関する研修を行いながら、児童生徒が気持ちや思いを表現できる力を育成する。
下半期	上半期と同じ(通年の取組)

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育 担当　人権・交流教育部	①自ら選択したり、できることを増やしたりする体験を通し、自尊感情や自己有用感を育む取組を推進する。②保護者、地域とふれあう活動を大切にするとともに、副学籍交流、学校間交流、校外学習等を通し、地域で出会う「人」とのつながりを生かした学習を展開する。

豊かな心に関わる本校の状況

「先生や同級生とよりよい関係構築ができていると思います。」「生徒の人権についてもう一度教える側が学び直していただきたい。」「自分の子はそう思うが、中高は疑問に思う。きちんとおこなえているのか。」とのご意見をいただきました。教職員からは、「子どもたち一人ひとりの意見や考えを、しっかり聴き受け止めているか、大人の考えや都合に合わせようとしていないか、今一度考えたい。」「まずは職員の人権教育が必要だと感じています。」などの意見がありました。
＜考察＞本校では、児童生徒が安心して過ごせる環境づくりを基盤に、自分の思いを受け止めてもらう経験を通して、自他を大切にする心を育てる人権教育に取り組んできた。また、保護者や地域との交流、副学籍交流や校外学習等を通して、多様な人との関わりの中で豊かな心を育む活動を大切にしている。保護者アンケートでは「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて88%の肯定的評価が得られ、人間関係が良好に築かれているとの意見もあり、本校の取組が一定の成果を上げていることがうかがえる。一方で、学部間や指導場面による取組の差を懸念する声や、教職員自身の人権意識や指導の在り方を見直す必要性を指摘する意見も挙がっている。今後は、教職員研修の充実を通して人権教育に関する共通理解を深め、児童生徒の声により丁寧に耳を傾ける実践を積み重ねることで、学校全体として人権を尊重する取組の一層の充実を図っていく必要がある。

今年度の目標

・副学籍交流や学校間交流を円滑にすすめ、相互理解の機会をつくる。
・学校外での活動を通し、生活するために必要な力を確認する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	通年の取組として ・小中学部児童生徒が居住地の小学校や中学校へ行き、一緒に学習する副学籍交流では、学習活動に参加して交流することを通して地域社会とのつながりをもち、子どもたち同士の相互理解が深まるようにする。 ・近隣校との学校間交流では、学校間で情報共有と事前打ち合わせを十分に行い、充実した交流活動ができるようにする。 ・近隣の幼稚園、保育園、小学校、中学校と授業実践を見合うブロック研究会を行い、お互いの教育活動について理解を深める。 ・地域の展示会や事業所との連携、地域に貢献する活動に取り組む。
下半期	上半期と同じ(通年の取組)

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
食育・健康教育 担当　給食部/保健体育部/保健部	①摂食指導や食材体験を通して、食への意識や興味関心のさらなる拡大を図るとともに、健康に良い食事や食育について情報発信を行う。②指導内容の共有を図り、体力の向上を目的とした活動の幅を広げる。積極的に運動に取り組む機会を設け、体力づくりへの意識を高める。③児童生徒の健康状態の把握、共有に努め、様々な病気の予防や拡大防止に取り組む。授業や日常生活の指導を通して、正しい生活習慣の形成や自分の身体や健康についての意識を高める。

健やかな体に関わる本校の状況

「野菜を育てたり、調理の下準備をすることで、食への関心が増していると思います。」「やってくれていると思うのだが知る機会がない。」「食欲に任せて食べるのではなく、決まりをまもり指導されている。」「子の健康は学校の給食で得ているので、とても助かっております。」とのご意見をいただきました。教職員からは「食育に関しては児童生徒が食に興味が向いたり、少しでも食べてくれるように様々な配慮を行なっている。」「食育について、特食等もう少し丁寧にやっていく必要がある。」などの意見がありました。
＜考察＞本校では、摂食指導や食材体験を通して食への興味関心を高めるとともに、健康に配慮した食事や食育に関する情報発信に努めてきた。また、児童生徒一人ひとりの実態に応じた体力づくりに取り組むとともに、健康状態の把握や感染症予防、正しい生活習慣の形成を日常的な指導の中で進めている。保護者アンケートでは「とてもそう思う」「そう思う」を合わせて95%の肯定的評価が得られ、「食への関心が高まっている」「給食が子どもの健康を支えてくれている」といった意見から、本校の食育・健康教育が児童生徒の生活や健康の維持向上に寄与していることがうかがえる。一方で、「取組内容を知る機会が少ない」との声や、教職員からは特別な配慮を要する食事指導について、さらなる丁寧さが必要であるとの指摘もあった。今後は、食育や健康教育の取組について保護者への情報発信を一層充実させるとともに、児童生徒一人ひとりの実態に応じた指導内容の工夫を重ね、より効果的な食育・健康教育の推進を図っていく必要がある。

今年度の目標

・食育を通して、食への意識や興味関心を広げる機会をもつ。
・一人ひとりの実態に合わせた「体力づくり」に取り組む。
・自分の身体や健康について考える機会を増やす。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	通年の取組として ・給食時間の摂食指導について専門家から助言を受けたり、食材体験を通して給食調理に参加したりしながら、食への興味関心を広げる支援を行う。 ・児童生徒の個の実態に合わせた体力づくりに取り組むとともに、12年間の系統性を大切にした体育科の学習活動の充実を図る。 ・子どもたちが日々の学校生活の中で、手洗いや歯磨き、水分補給、怪我や病気の予防などの指導を受けながら、自分自身の健康への関心を高められるようにする。
下半期	上半期と同じ(通年の取組)